



ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当

上越市 総合政策部 総合政策課 ふるさと応援室

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-520-5625

ホームページ▶

ふるさと上越



赤倉スキー場 撮影：宮崎俊英さん

「たより」 No.312 目次

会員数と「ふるさと市場」販売報告	1	郷友会コーナー	6
Jネットの活動とお知らせ	2	JネットHPのご案内	7
上越の行事	3	上越タイムス・上越ケーブルビジョン (アクセス方法のご案内)	7
◇ 2026年レルヒ祭 ◇灯の回廊		上越市からのお知らせ	7
俳句ひろば	4	上越産品販売のお知らせ	7
会員ひろば	4	Jネット令和8年新年会スナップ	8
◇「祖父の形見」 宇賀田洋巳		Jネットからのお知らせとお願い	8
◇漱石の「坊ちゃん」と上越 横野利一			
◇八海山を仰ぐ八色の森公園に建つ池田記念美術館 木嶋 彰			

会員数と「ふるさと市場」販売報告

(1) 会員は526名(令和8年1月20日現在)

(2) ふるさと市場の販売取次状況 令和7年12月 650点 898,078円 ※前年同月 491点 827,029円

◆ 1月8日(木)湯島にて新年会開催

Jネット会員の皆様、明けましておめでとうございます。

今年も宜しくご協力下さいますようお願い申し上げます。

上越では元旦から一転寒波到来、どうかお気をつけてお過ごし下さい。

さて、Jネットの新年会/サロンが県人会館で開催されましたので、ご報告いたします。

当日は80名（昨年は66名）の皆さんに参加いただきました。



上越市ふるさと応援室長の大谷健一郎さんとの挨拶に続いて、前会長の伊藤利彦さんから乾杯の音頭をとっていただき、懇親会に。今回高田からお越しいただいた竜本恵美子姐さんのお祝いの踊り、お正月曲と高田の四季でスタート。その後賑やかな歓談に入り、途中再び恵美子姐さんから、春日山節、直江津小唄、三階節の踊り、皆さんからの歌声も聞こえ、お正月に相応しい懇親会になりました。恵美子姐さんありがとうございました。最後は中島幸雄さんに締めていただきました。

なお、初めての参加会員は、沢崎文明さん、早川博さん、松縄宏さん、池田克史さん、野崎義朗さん、吉越啓太さん、稻井里仁さん、この他ゲストでも数名の皆さんのが参加されました。また遠方からは上越からの他、大阪から村田昭夫さんが参加下さいました。

(Jネット会長 小坂庸雄)

日本酒、スイーツ、カレンダーなど差し入れありがとうございました。（敬称略・順不同）

川堀昌樹、祖父江ひろみ、竜本恵美子、高橋稔、樺野利一、大谷室長、小坂庸雄&夏子、岡沢義隆、宮腰広司、永野周平、池田肝太、森島明子、新山芳子、浜野寿子、村田昭夫、吉越昌治、若村和之、西山英男、岡村普、田村由紀男、石田哲朗、内田道行、瀧澤康二、竹内正行
(事務局 記)



※ 新年会の集合写真などを P8 に掲載しています。

◆ 第61回Jネット勉強会報告 横浜市歴史博物館の見学

今回の勉強会は1月14日に横浜市歴史博物館の見学でした。参加者は小坂会長以下20名。館内でボランティアガイドから縄文時代から近代までの展示物を丁寧な説明で聞き、新たな横浜の歴史を習得しました。その一つに今の県庁等のある横浜の中心街が埋立地だったことは知りませんでした。その後、懇親会を中華街に移して中華料理を楽しみながら、円卓を囲んでふるさとの話などの四方山話に花が咲き、参加者の皆さまからも喜ばれました。（溝口良二 記）



◆ Jネット女子懇親会（2026.1.17（土））

才色兼備はパワフル！ふるさと上越ネットワークの女子会。北城のお姉様方が半分。今は共学になりましたが、今は昔、憧れの女子校の代名詞。90歳でパークゴルフの試合に！とか言う強者もいらっしゃって、55歳はまだハナタレということしみじみした週末。場所は上越やすだ銀座二丁目店。次回を楽しみにしています。

（稻場晃美 記）



◆ 春の交流会/懇親会のお知らせ

令和8年度の交流会/懇親会を下記の通り会差します。なお懇親会は5日、6日の両日に行います。

4月5日(日) 会場 宇喜世 13:00~15:00 参加費 4,000円

4月6日(月) 会場 食堂なかしま 12:00~14:00 参加費 3,500円

参加人数に限りはありますが、参加ご希望の方は事務局にご連絡ください。TEL: 03-5244-5138 メール: k.miyazato@araipt.co.jp



上越の行事

◆ 2026年レルヒ祭

2026.2.7（土）12:00~19:30 2.8（日）9:30~19:30

2026年2月7日、8日レルヒ祭が開催されます。「レルヒ祭」は、レルヒ少佐の偉大な功績を後世に伝承していくために開催される冬の大イベントです。

会場：金谷山スキー場、高田本町商店街ほか

問合せ先：レルヒ祭実行委員会事務局

TEL: 025-543-2777（上越観光コンベンション協会）



◆ 灯の回廊（ともしひのかいろう） 雪とキャンドルが地域をつなぐ

2026.2.21（土） 2.28（土） 17:00~21:00（予定）

「灯の回廊」は、安塚区・大島区・浦川原区・牧区・高士区・名立区・三和区の沿道に約10万本のあかりが灯るイベントです。各地域において子どもからお年寄りまで、住民総出でひとつひとつのキャンドルに想いを込めて作り上げています。人々の手によって灯されるキャンドル、そのやわらかなあかりが演出する一夜限りの温かな雪の世界を、どうぞお楽しみください。

（公式HPにいがた観光ナビより引用）

問合せ先上越市 観光振興課：025-520-5741

【2月21日】●牧区 ●高士区 ●三和区 ●名立区 【2月28日】●安塚区 ●浦川原区 ●大島区



俳句ひろば

ふるさと 冬

冬鳴の一鳴き峠の空揺らす

薪を割る音に綿虫わき出づる

冬囲越えて海鳴り海猫の声

雪折れの竹むざむざと香りけり

野兎の迹追ふてまぶしき凍み渡り

せせらぎを寝息のやうに山眠る

白々と月影返す蓮の骨

鉄瓶の鳴くまで焼べし凍てし夜は

ひれ酒に燐寸奉行のをりにけり

煮凝や母は信州在育ち

上野直江

会員ひろば

◆「祖父の形見」

いま私の手元には相馬御風の書による掛軸があります。同郷の方には特に珍しいものではないかと思います。掛軸には〈大そらを静に白き雲はゆくしすかにわれも生くべくありけり〉と書かれています。この歌は『御風歌集』に収められています。ここからは朝日新聞に連載されていた大岡信『折々のうた』からの引用となりますが、「この短歌には都塵を見捨てて田園に還った人の悠然たるたたずまいがある。言葉の平らかな点も心詞一体。」また、この掛軸には歌の下にちょっとした墨絵が描かれています。「通勢」の署名があるので、さる筋に鑑定してもらい、河野通勢の真作が確認されました。ご存知の方も少なくないと思いますが、通勢は大正から昭和にかけて活躍した画家で、岸田劉生や武者小路実篤も絶賛した早熟の天才でした。善光寺の近く、長野市南県町で育った彼は、長野中学校時代から画家になることを志します。後年、岸田劉生の率いる草土社へ参加。白樺派とも交流し、やがて大衆小説の挿絵画家として活躍しました。2008年2月には私の住む平塚美術館で「大正の鬼才」河野通勢展が開催され、NHK日曜美術館でも紹介されました。さて、この掛軸は私の母方の祖父が買い求めたもので、祖父の死後に母が形見分けをしてもらったものです。1903年生まれの祖父は国鉄に就職し、在所の直江津駅で長く勤務していました。戦後は貨物関係の主任のような仕事を担当し、どうやら、その時期に骨董関係の業者と懇意になり、掛軸等を収集するに至ったようです。その後は専ら貨物輸送のダイヤを組む業務に携わり、少し出世して48歳で親不知の駅長になります。それから富山県の新湊駅に移り最後は青海駅で退職します。1958年当時の国鉄は55歳定年でした。1981年に亡くなりましたので78年の生涯でした。晩年は長男（私の伯父）を頼って慣れぬ東京で暮らしましたが、死後は郷里直江津（林覚寺）の先祖代々の墓に入りました。しかし諸般の事情で墓仕舞いすることとなり、また東京に戻り小平霊園に眠っています。昨年の帰省時に、いまはえちごトキめき鉄道となった日本海ひすいラインに乗りました。有形文化財に登録された駅舎から、祖父の居た頃には無かつた北陸自動車道（海岸高架橋）の先に日本海が広がっていました。最後に一句〈秋夕焼の親不知駅祖父の駅〉お粗末様でした。

宇賀田洋巳（新光町）



写真：1976年撮影（新光町の実家の前）後ろに見える白い建物は、今も営業している上越市のオールシーズンプールです。

◆ 漱石の「坊っちゃん」と上越

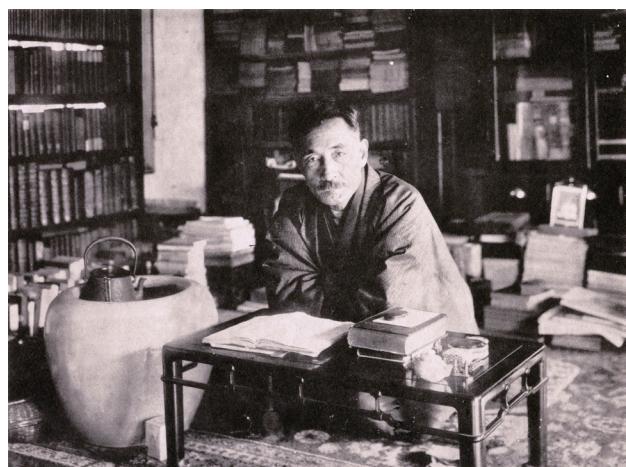
樫野利一

夏目漱石と上越との関係と言えば、医師の森成麟造先生を思い浮かべる人が多いと思う。東頸城郡真荻平村（現在の上越市安塚区）出身の森成麟造は高田中学校（現高田高校）から仙台医学専門学校（現東北大医学部）に進み、卒業後は東京の長与胃腸病院に勤務し、そこで患者としての夏目漱石に出会う。漱石の修善寺の大患（明治43年）のときは、付きっきりで治療・看病に努め、その回復に貢献した。その翌明治44年、麟造が高田で開業するために帰郷する際、漱石夫妻は自宅で感謝の送別会を開き、そのときの集合写真は漱石一家、漱石の弟子たちが写っていて有名である。そしてその年、漱石は麟造の招きに応じて高田を訪れ、高田中学で講演し、直江津の五智や和倉樓にも足を運んでいる。

しかし、「坊っちゃん」（明治39年）や「野分」（明治40年）は漱石が麟造を知る前に書かれている。「坊っちゃん」の登場人物で印象忘れがたい清（きよ）は「越後の笹飴が食べたい」と言っているし、「野分」の主人公白井道也の最初の勤務先は高田の中学校である。そんなことを漠然と思っていたときに私の出会った書物が、勝山一義著「小説『坊っちゃん』誕生秘話」（平成21年刊）であった。著者の勝山先生は昭和11年生れ、板倉の有恒高校から早稲田大学文学部に進み東洋史を専攻、卒業後は新潟県内の高校や教育委員会に勤務し、新潟商業高校校長、関根学園高校校長を歴任された方である。そして教鞭を執る傍ら、漱石、特に「坊っちゃん」の研究に打ち込まれ、上述の著書はその集大成である。

それによると、刈羽郡北条村小島（現在の柏崎市小島）の出身で、東京物理学校（現東京理科大学）で数学を学び、のちに高田中学の数学教師を経て、「女子技芸専修学校」（現関根学園高校）を設立した関根萬司という人がいる。また中蒲原郡沼垂町（現在の新潟市中央区）出身で新潟商業から東京帝大選科に進み、そこで漱石に英語・英文学を教わって、卒業後中学の英語教師となった堀川三四郎という人がいる。（そういえば漱石に「三四郎」という小説（明治41年）がある。）この二人は相前後して、宮城県第四中学校（現角田高校）に勤務している。そして関根萬司の在任中の明治36年に四中で校内騒動が起き、その余波で関根萬司は高田中学に異動となり、騒動の責任を取る形で佐藤亀世校長が長野県松本中学大町分校主事に降格左遷されている。

騒動後明治37年に四中に赴任した堀川三四郎はこの事件の顛末を知り、それを恩師である漱石に語った。漱石はその話に興味を持ち、モディファイして、自身がかつて住んだ松山の町と勤務した松山中学校を舞台に小説を書いた。それが「坊っちゃん」である。つまり「坊っちゃん」の主人公（東京物理学校出身の数学教師）のモデルは関根萬司であるというのが勝山先生の推理である。また英語教師の「うらなり」のモデルは堀川三四郎であるという。そしてこの結論に至るまでに、勝山先生は萬司と三四郎のゆかりの各地を訪れ、多くの関係者に面談・取材し、数多の文献を涉獵し、丹念に考证して、論考を進めておられる。全編、興味深い話がすこぶる多いが、一例を挙げると、堀川三四郎は東京と郷里を行き来するとき必ず直江津で乗り換えたという。（当時はまだ清水トンネルがなく、新潟や長岡から東京に行くには信越線で直江津経由だった。）そのころ直江津駅前には「いか権旅館」、「山崎屋旅館」、「くさのや（土産物店）」などがあり、「坊っちゃん」に出てくる「いか銀」、「山城屋」、「越後の笹飴」などは三四郎から直江津の話を聞いた漱石が用いたといわれる。ともあれ、堀川先生の学んだ新商、関根先生の設立した関根学園、この両校の校長を務めたことに勝山先生は運命的な出会いを感じておられる。あれやこれやで、漱石の小説「坊っちゃん」と上越の縁を連想してうたた感慨深い。



◆ 八海山を仰ぐ八色の森公園に建つ池田記念美術館

木嶋 彰(画家、拓植大学名誉教授)

八海山を仰ぐ八色の森公園に建つ池田記念美術館、ここで開催される「八色の森の美術展」は2017年に始まった。毎年30名ほどの作家が展示を通して刺激を共有しあう。ここに個展ではない醍醐味がある。しかし、この展覧会はこれまでに参加してきた企画展とは事情が異なっていた。

「これからの中は作品を展示するだけでなく、作品を媒介に思考・対話する教育現場としても機能する必要がある」これは高橋良一美術館長の理念であり、この開かれた美術館構想を実践すべく「八色の森の美術展」は企画されたのである。出品作家は地域の園や学校へ出向き出前授業をおこなう。そこで制作した作品は作家作品と共に展示する。鑑賞型哲学対話では作品を前にして車座になって語り合う。出品者と鑑賞者という壁を取り払い、難解ともいわれる現代美術について解のない率直な意見交換をおこなうことになる。延べ550人の学生や社会人といった参加者は、作り手と鑑賞者、さらには鑑賞者同士の相互理解の場としても機能し、作り手にとっても意義深いものである。そこで「画家こそが純粹な子供性を体現しているのではないか」そう学んだのは私だけではない。

国内で開設されている美術館は、おおよそ450館といわれ県内には38館が点在する。首都圏では、都心部に大型美術館の建設が進み、展覧会の集客競争はかつてなく激化する。一方、地方の美術館には厳しい課題が突きつけられている。

展覧会入場者数は毎年1,300~2,000人。この数はどのように評価したらよいのであろうか。コストパフォーマンスの圧力の中で美術館は成果を数値で示さなければならない時代に、美術を享受する感性の深まりをどのように表わすことができるのだろうか。さらに学校における美術教育はさらに深刻な状況にあり、図工・美術といった感性教育の存続が危ぶまれている。だからこそ、子どもたちに美術を好きになってもらうため、美術館は地域の教育機関と連携し、美術にはつくる楽しさ、観る喜び、語りあう意義があるということを伝えていかなければならない。そして、地域の中で存在せざるを得ない地方美術館がどのようにして存在理由を構築すればよいのか。このことは地方創生という観点からも逃れられない課題ともいえる。

「八色の森の美術展」は、2025年度から「八色の森ビエンナーレ」と改変し、新たな活動を企画している。さらに踏み込んだところで、美術館が美術教育、感性教育の拠点として地方創生の一助となるような展開こそが求められている。



郷友会コーナー

◆ 東京浦川原会総会のお知らせ

日時：令和8年3月15日（日）

12時～15時 受付開始 11時20分

場所：上野精養軒 3階 桐の間 会費：10,000円

ご参加の方は、下記Jネット事務局にご連絡ください。

TEL：03-5244-5138 メール：k.miyazato@araipt.co.jp



R7年度総会

Jネット ホームページ

◆ ふるさと上越ネットワークのホームページをご覧ください

「たより」を全ページカラーでご覧いただけ、上越市の四季の写真他、掲載は多様です。お知らせページでは各地の話題やイベント情報、会員ひろばでは、たくさんの話題、また会員のみなさんからの寄稿文やホットな情報もご覧いただけます。



お知らせ、会員ひろばコーナーでは、上越に関する情報を発信できます。ぜひご活用ください。

ぜひとも、「ふるさと上越ネットワーク」を検索し、ご覧ください。スマートフォンでは、左のコードからご覧いただくことができます。

上越タイムス電子版、上越ケーブルレビューションへのアクセス方法（会員のみ）

◆ Jネット会員は、無料でご覧いただけます。

- ① HP右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックし各社のHPへ
- ③ 下記のメールアドレス・パスワードにてログインしてください。



上越市からのお知らせ

◆ ふるさと納税の寄附額が10億円を突破しました！

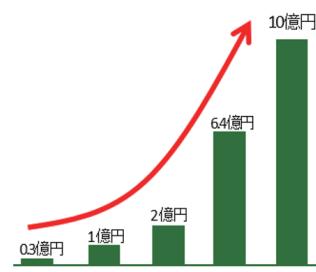
令和7年度の寄附額が、年明けに10億円を突破しました。本格的な取組を開始した令和4年度以降、右肩上がりで推移しています。

当市が誇る数々の地場産品のPRに加え、Jネットの皆さまから、日頃より当市の魅力を発信いただき、盛り上げていただいているおかげです。誠にありがとうございます。

今後とも上越市を応援くださいますようお願いいたします。

今年のふるさと納税返礼品の人気のお品をランキング形式でご紹介します。

- 🥇 1位、お米
- 🥈 2位、チケット類（オーダースーツ券、富寿司等のお食事券など）
- 🥉 3位、お酒（ワイン、日本酒、クラフトジン、クラフトビール）



昨年の米不足から引き続きお米が人気で、寄附の7割を占めています。コシヒカリはもちろん、新之助やミルキークイーン、みずほの輝き、ゆうだい21など、米どころとして、いろいろな品種が選ばれています。

毎月届く定期便が人気で、高評価のレビューもたくさんいただいているです。

総合政策課ふるさと応援室（TEL：025-520-5625）

上越産品販売のお知らせ

● Jネットふるさと市場「取次販売商品一覧」

会員は送料無料でお取り寄せができますので、どうぞご利用ください。

現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧（A4版1枚）を同封にてお届けします。

● 上越特産市場 JCCソフト株式会社運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモールです。

「上越特産市場」でネット検索いただき、お申込み下さい。

● 「雪国商店」東京交通会館店 お問合せ先 JCV東京情報センター TEL：03-5218-7730

<https://yukiguni.shop/> (有楽町駅から約3分) 場所：有楽町交通会館1階 営業時間：11:00～19:00

● 新潟・上越妙高「うまさ直送！雪国マルシェ」【生産者のみなさまのお声を直接お聞きしてお買物ができます】

日時：2月28日(土)・3月1日(日) 3月28日(土)・29日(日)会場・時間：11:30～17:30 交通会館1Fピロティ



【次回以降のサロン】毎月第2木曜日開催 17:30~19:00（予約不要・途中からのご参加もOKです。）

◆ R8.2月12日(木)17:30~19:00 ◆ R8.3月12日(木)17:30~19:00 参加費1,500円

会場：東京新潟県人会館「ふれあいふるさと館」 〒110-0005 東京都台東区上野1-13-6 TEL：03-3832-7619

● Jネットからのお知らせとお願い

会員の皆様には、ご自分の思い出やご経験、上越の魅力、上越に役立ちそうなこと、会員の親睦を深めることなどなんでも結構ですので、記事（1,200字程度まで）と写真を送信いただければ幸いです。投句もお待ちしています。

さらに、たよりについて、記事や俳句の感想をお寄せ頂ければ、寄稿や投句された会員の励みになります。こちらもお待ちしています。（頂いた感想は、たよりに掲載いたします。） Mail 送信先事務局：k.miyazato@araipt.co.jp

◎次号「たより」は令和8年3月10日の発行です。